

北地域後援会は我孫子1～4・久寺家・台田・つくし野・並木・根戸・布施のエリア

マンリョウ



しらかば北

発行責任者
井上文夫

(部内資料)

2026年 明けましておめでとうございませす



日本共産党議長
衆議院議員 志位和夫

新年おめでとうございませす。

国民の審判で少数与党にまで追い込まれた自民党政治を終わらせ、新しい政治への道を開く決意を新たに新年を迎えました。自民党と補完勢力の「反動ブロック」の危険は決して軽視できませんが、高市政権はもろさと弱さをはらんでいます。

私たちは、自民党の危険な政治に真正面から立ち向かい、切実な要求実現のために力をつくしてまいります。

近々には総選挙の可能性があらあります。

日本共産党の前進・勝利のために後援会のみなさんの一層のご支援・ご協力を心からお願いいたします。



我孫子市議会議員
船橋 優

新年おめでとうございませす。

旧年中は大変お世話になりました。昨年は、米不足、物価高、災害等、激動の一年でした。市政でも、国保料の3年連続値上げを始め、水道料金や駐輪料金の値上げが可決されてしまいました。いずれも反対しましたが、数の力で負けてしまいとても残念です。12月議会では議員定数削減案も通ってしまいました。元に戻したものです。

これから大型工事も計画されていますが、もともと市民生活に力をつ注ぐべきだと思います。

世界では、いまだ紛争が絶えず、高市政権の大軍拡には何としてストップをかけなければなりません。

平和が何よりも一番です。本年も健康に注意して頑張りましょう。

我孫子北後援会長

井上文夫

新年あけましておめでとうございませす。

昨年は「しらかば北」のご愛読を誠に有り難うございました。今年もどうぞよろしくお願い致します。

ここ数年続いている物価高は今年になっても治まる気配がありません。昨年の参院選では「消費税減税」を求める政党が多数を占めたにもかかわらず、高市・自維政権はその要求に背を向けしています。一方、26年度の予算案では軍事費が過去最大の9兆350億円と、初めて9兆円を突破しました。

戦争の準備ではなく、平和と国民の暮らしを守る政治へと大きな転換を求めています。

また、北地域後援会として住民の方々の要求に耳をかたむけ、その実現のために船橋まさる

不破哲三さんのご冥福を

お祈りいたします

思い出があります。1969年(昭44)衆議院選に初めて不破さんが立候補した時、当時活動していた荒川区町屋に集まったところ、不破さんがご夫婦揃って挨拶にこられました。穏やかに力強く話をされました。39歳、頼もしく若さに期待で応援しました。(江)



た。39歳、頼もしく若さに期待で応援しました。(江)

市政報告と新春の集い

12月議会の報告と新しい年への思いなど懇談したいと思います。

1月31日(土) 14時～

つくしの丘事務所
参加費 500円

お気軽においでください

日本共産党我孫子北地域後援会
我孫子北支部



柴崎神社に初詣で

市議会議員を先頭に全力で頑張っています。ぜひ、皆まの声を「しらかば北」にお寄せ下さいませよう、よろしくお願い致します。

1月2日柴崎神社に初詣に行きました。社殿までの階段には長蛇の列。社殿の右手の札所は、御守りや破魔矢を求めて大混雑。左に神酒所があり、お神酒や甘酒の振舞い。境内に御神楽や獅子舞の舞台。我孫子の総鎮守の神社として大変な賑わいでした。(江)

花火

あけましておめでとうございませす。
春には初孫が小学校に入学します。ランドセルの色をたずねられて、「水色だよ」と答える姿は、希望に溢れています。しかし、高市政権のもと日本では戦争の準備が進み、市民には戦争への不安が広がっています▼年木に計報が届いた海老名香葉子さんは、東京大空襲で家族6人を失い11歳で戦争孤児となった痛苦の経験から、「もう決して、あの時の私のような子どもをつくらないでほしい」と、生涯、平和を訴え続けました▼「戦争だけは絶対にだめ」と肩をふり絞ってきた戦争体験世代が1割へと減少するなかで、改憲や大軍拡路線を、無責任にすすめるとする政治家が増えているように思います

▼海老名さんは反戦平和を貫いてきた日本共産党を信頼し、昨年も「もう一度、力強く庶民の力になってください。永遠の平和を守り続けて」との声を寄せてくれました。日本共産党の踏ん張り時、子や孫たちが平和に暮らせるように、決意新たに、力を尽くしていきたいと思ひます。(岩切)

無言館館主の窪島誠一郎さんの講演会があったので聴きに行った。昨年12月21日、御茶ノ水の金労連会館での日本民主主義文学大会の60周年記念講演で、後援会長の井上さんと一緒だった。

無言館はアジア・太平洋戦争に出征した画学生や夭折した画家の作品を展示しているのだが、その作品は窪島さんが知人の画家と二人で全国の戦没画学生の遺族宅を回り収集したものである。1979(昭和54)年、長野県上田市に信濃アッサン館を設立、その隣接地に分館として1997(平成9)年に無言館が開設された。「記憶のパレット」という戦没画学生の慰霊碑も建てられた。



筆者撮影

無言館館主

窪島誠一郎さんの

「話」を聴いた

竹内壯一

講演のタイトルは『文学』の力、『美術』の力というもので、自らの生い立ち、窪島さんの生き方や文学・美術とのかかわり方に強い影響を与えた3人の「恩師」のこと、そして信濃アッサン館、無言館設立の経緯について、ふんだんにジョークを交えて語ってくれた。

無言館が設立されて約30年、130人、600点の作品が収蔵され、昨年も4万人の来館者があったという(なお窪島さんが病気になるまで信濃アッサン館は2018年に閉館された)。こつした窪島さんの話を聴いて、だいぶ前になるが、初夏、信濃アッサン館と無言館に行ったこと、アッサン館に併設されていた喫茶室でコーヒーを飲みながらアッサン館、無言館を建てた窪島誠一郎という人は凄く人だなと

我孫子市議と話し合おう

我孫子市議と語るつどい

とき 2026年 1月24日(土)14時～
ところ 我孫子市民プラザホール

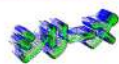
主催 市民の声あびこ

第3回食料支援 中央学院大学学生へ

日本共産党東葛地区委員会は、食料支援として、12月10日(水)第3回中央学院大学学生たちへの食料支援を行いました。

諸物価高騰が続く中で、一人暮らしの学生に少しでも生活の援助をと昨年からはじめ、今回は3回目となりました。事前にチラシでお知らせし、希望者は予約をしてもらいました。授業時間の関係で受付時間を2回設定し、予約者は16人ありました。この食料支援活動に協力していただいた方々に感謝申し上げます。(野村)

当日の「飛び込み」も6人あり、会場は活気あふれました。支援した物資は、お米、カップラーメン、インスタントカレー、缶詰などで袋に入れ切れないほどの量に学生たちは感謝していました。その場で「今の気になる社会問題」などのアンケートを書いてもいいながら、困っていることなどの対話をしました。



富山 稔

世界のワイルドフラワー (10)



グアリアンテ・スキンネリ (カトレヤ・スキンネリ) (*Guarianthe skinneri*)
1月グアテマラ・グアテマラシティの南サンタロサ県で撮影

初めてグアテマラに調査のため訪れた時、大都市の周りの山で、ピストル強盗に遭遇した。ピストルを突き付けられ、人気のない小道に連れてこられ、お金をはじめ、カメラ道具などほとんど奪われた。おかげで満足な調査ができなかった。2回目に訪れた時は警官同行で山中に入った。目的はグアテマラの低山地の樹上に着生するカトレヤである。ようやく見つけたカトレヤは、大きな農家の広い庭のあちこちの樹に見事な花をつけていて感動した。

新春俳句

冬北斗 向かいてとげる この一年
梅雨寒や 老いの住まいの 四畳半
戦火くぐり抜け ハ〇年後の 桜かな

頼生



絵手紙 齊藤とよ子さんの作品

計報

「しらかば 北」編集委員の中川満さんが昨年12月26日、お亡くなりになりました。83歳でした。生前のご活躍に敬意を表し、ご冥福をお祈りいたします。